

現在の生活の満足度

母親自身は、現在の自分をどのように評価しているのだろうか。ここでは、A：母親として、B：妻として、C：働く（活動する）女性として、D：一人の人間として総合するとの四つの側面について「とても満足している」「まあまあ満足している」「あまり満足していない」「ぜんぜん満足していない」の四つの選択肢のなかから答えてもらった。

● 全体的に「母親として」の満足度が高い

「とても」+「まあまあ」満足の数値をみると、母親として73.5%>妻として65.7%>一人の人間として59.7%>働く女性として38.1%となった（図3-14）。

母親としての満足度が70%を超えていることから、幼児から小学校低学年までの子のいる母親はやはり、自分の存在を「母親」ととらえることで満足している人が多かった。

● 小1生の母親にみられる矛盾

では、この結果を学年別にみていくとどうなるのだろうか。図3-15をみるとわかるように、「母親としての満足度」は学年によってそれほど大きく動かない。「妻としての満足度」は小1生までは上がり続け、子どもが小2生になると下がる。ここで注目されるのが小1生の母親の数値である。「母親としての満足度」も「妻としての満足度」も他学年に比べ最も高いのに、「一人の人間として総合したときの満足度」がやや低くなっている。グラフの動きは、「働く女性としての満足度」と同じ形をとっている。ここで見るかぎり、両者の間には相関関係があるといえよう。

今回の調査結果の中から、実際の就業状況を見ると、子どもが年長児→小1生→小2生へと学年が上がるにつれ、パートタイマーは30.4%>28.9%<33.4%、常勤者は15.7%>

11.6%<12.9%という動きをみせ、小1生でV字型にやや数字が落ち込んでいるのである。子どもが小学校に上がるタイミングで仕事をやめている人がいる。また、この機会に再就職したいと願っていたが、事情があって果たせなかった人もいるであろう。実際、近所に学童保育をしてくれる施設がないと、小1生を一人で留守番させたり、長い夏休みをどう過ごさせるかといった問題が出てくる。幼児の頃は、保育園がそうした働く母親を支援してくれるが、問題は小学校に上がったときで、この数字はそうした社会的背景の反映かもしれない。

● 仕事・子ども・夫のバランス

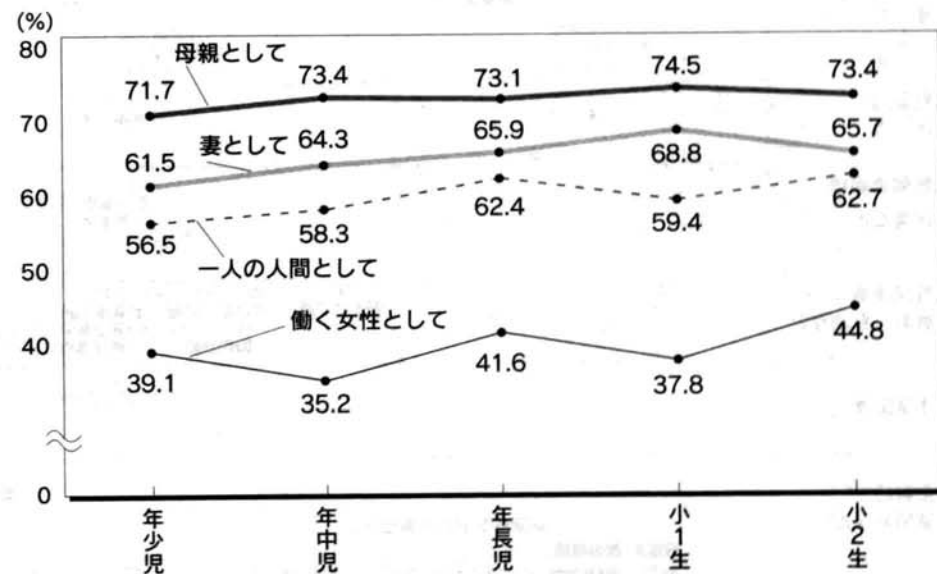
では、就業状況別に満足度をみていくとどうなるのだろうか。「働く女性として」を仕事軸、「妻として」を夫婦軸、「母親として」を子ども軸とみなし、「とても」+「まあまあ」満足のを3角形にして示したのが図3-16~18である。3角形に重ねた円は「一人の人間として総合したときの満足度」の%を表している。結果的には、常勤者の「一人の人間としての満足度」の円が最も大きくなっていった。また、パートタイマーの3角形を左に120度回転させると、常勤者の母親の3角形と相似形となり、「母親として」と「働く女性として」の満足度が入れ替わった状態になる。

理想としては、できるだけ大きな正3角形を描きたい、というのが今の母親の多くが望むところなのであろうが現実には厳しく、三つのうちのどこかにウエイトを置いて選択し、バランスをとっているのが実際の姿といえよう。

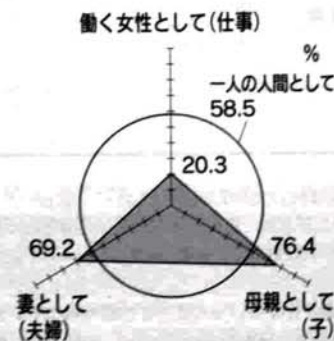
●図3-14 現在の自己評価

	とても満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	ぜんぜん満足していない
母親として	10.8	62.7	22.7	3.8
妻として	9.2	56.5	27.1	7.2
働く女性として	5.5	32.6	34.0	27.9
一人の人間として	5.3	54.4	34.7	5.6

●図3-15 現在の自己評価（『とても+まあまあ満足している』割合）×学年

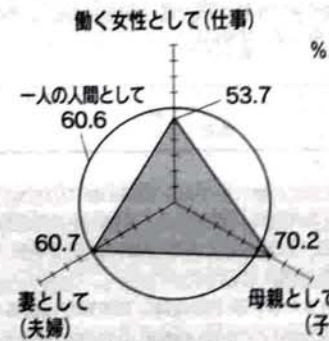


●図3-16 現在の自己評価（専業主婦）



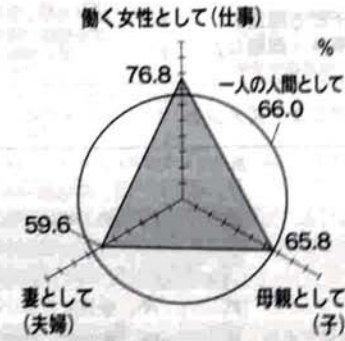
「とても+まあまあ満足している」割合

●図3-17 現在の自己評価（パートタイマー）



「とても+まあまあ満足している」割合

●図3-18 現在の自己評価（常勤者）



「とても+まあまあ満足している」割合